学科名・専攻名 総合情報学専攻

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	2	3	4	(5)
点検項目	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、各学位課程に ふさわしい授業科目を開設し、教育課程 を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育 を行うための様々な措置を講じている か。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切 に行っているか。	学位授与方針(ディプロマ・ポリシー) に明示した学生の学習成果を適切に把 握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑ を記入)	✓ している□ 一部している□ していない	☑ 講じている□ 一部講じている□ 講じていない	✓ 行っている□ 一部行っている□ 行っていない	✓ している□ 一部している□ していない	✓ 行っている□ 一部行っている□ 行っていない
	博士前期課程においては、2020年度に改	学部学生の研究意欲の向上、大学院教	成績評価及び単位認定を適切に行うた	2020 年度に改定した学位授与方針(デ	2019 年度に「大学院及び総合情報学部次
	定した教育課程編成・実施の方針(カリ	育の重要性を啓蒙する措置として、大	めの措置:	ィプロマ・ポリシー) に明示してある(専	期改革委員会」において、大学院の教育体
	キュラムポリシー) に基づき、情報処理	学院リーフレットを作成し、学部学生	・「授業科目の履歴及び単位認定」を「学	門知識・技能)、(研究・開発能力)、	系の構成について検討し、「情報システム
	や情報科学に関連する研究を推進して	や保護者に対して説明会などを実施し	生ハンドブック」、東京情報大学大学	(研究の素養) を把握、評価するため、	系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報
	いくための総合情報学や基礎知識を修	ている。また、学部学生が大学院の科	院学則第 6 条から第 8 条に基づき、	現行のルーブリック型のパフォーマン	系列」の3つの系列を柱とした大学院教育
	得する「基礎科目」を配置した。「情報	目を履修できる先取り履修制度を設け	「授業科目の履修及び単位認定」を	ス評価を改定し、新たなパフォーマンス	体系を設置した。(第307回東京情報大学
	システム系列」、「社会情報系列」、「へ	た。(大学院リーフレット)(第 307 回	「学生ハンドブック(諸規則諸規程)」	評価を作成した。新たなパフォーマンス	大学院拡大研究科委員会資料)
	ルスケア情報系列」の3つの系列におい	東京情報大学大学院拡大研究科委員会	に明示し、単位認定を行っている。	評価では、「テーマ設定」、「研究内容」、	次に、「大学院及び総合情報学部次期改革
	ては、それぞれの専門的特徴を活かした	資料)	・東京情報大学大学院学則第 12 条及び	「発表内容」の3つの観点から9項目を	委員会」において、ディプロマポリシー、
	「専門科目」(コースワーク)を編成し、	教育内容に関しては、大学院のシラバ	第 13 条に基づき、「課程修了の要件」	設定して研究論文発表会(中間報告)の	カリキュラムポリシー、アドミッションポ
	「修士特別研究」(コースワーク)によ	スについて学部と同様の内容を提示す	を「学生ハンドブック(諸規則諸規	際にパフォーマンス評価を実施するこ	リシーの見直しと教育編成の整合性を検
	り、研究・開発能力を修得する研究指導、	るようにし、第三者により整合性のチ	程)」に明示し、修了判定を行ってい	とで学生の研究活動の進捗状況を把握、	討するとともに、系列の教育編成に対する
	「修士特別演習」(リサーチワーク)に	ェックを行っている。また、研究指導	る。	評価する。次に、その評価内容と集計結	カリキュラム構成 (コースワーク、リサー
点検項目に	より、研究の素養を修得する口頭発表や	の内容について、募集要項及びWEBに	学位授与を適切に行うための措置:	果を、当該学生の指導教員を通じて学生	チワークを含める)の体系化を検討し、改
対する	修士論文発表会などを行った。更に、「専	おいて指導教授及び指導准教授の研究	・東京情報大学大学院学則第 14 条から	にフィードバックし、その後の研究活動	定を図った。(第307回東京情報大学大学
現状説明	門科目」においては、学部教育との接続	指導の内容及び方法を明示している。	第 18 条に基づき、「学位論文(博士前	の改善に活用している。	院拡大研究科委員会資料)
564(1069)	性を考慮して、系列に配置する科目を	研究活動に関しては、「学生ハンドブッ	期課程)審査のための要件及び方法」	最終論文審査においては、複数の教員に	2020 年度には、2019 年度の検討結果を受
	「情報システム系列」は、システム開発、	ク 論文計画書の提出から学位論文審	及び「博士 (総合情報学) の学位授与	よる論文審査・口頭試問を実施し、大学	け、教務関係の大学院学則の改定を行っ
	ネットワーク、知能情報、環境情報、デ	査の申請まで」において、年間スケジ	のための要件及び方法」を「学生ハン	院の論文の中から優秀賞を選定するた	た。(第317回東京情報大学大学院拡大研
	ータサイエンスの各分野、「社会情報系	ュールと研究指導の内容を明示し、こ	ドブック(諸規則諸規程)」に明示し、	めの論文評価基準を規定している。(第	究科委員会資料)
	列」は、メディア情報、経営・社会情報	れに基づいて実施している。	論文審査を行い学位を授与している。	301 回 東京情報大学大学院拡大研究科	次に、新しいディプロマポリシー、カリキ
	の各分野に分類して体系化することで、	研究発表に関しては、研究論文発表会		委員会)(大学院ルーブリック評価表 v1)	ュラムポリシー、アドミッションポリシー
	学生の専門性と科目選択の方向性を明	(中間報告) の際に、複数の教員によ	博士前期課程の修了要件は、大学院学則	(大学院ルーブリック評価法 v1) (資料:	と教育編成の整合性を確認するとともに、
	確化した。(第 307 回東京情報大学大学	るパフォーマンス評価を実施すること	第 12 条の規定に基づき、修士の学位授	修士論文・発表_採点用紙例)	系列の教育編成に対するカリキュラム構
	院拡大研究科委員会資料)	で学生の研究活動の進捗状況を把握、	与のための基準及び方法を設け、主査		成(コースワーク、リサーチワークを含め
	2020 年度には、 系列の教育編成に対す	評価している。また、その評価内容と	(主担当指導教員) 及び副査(副担当指		る)の改定を進めた。(2021年度学生ハン
	るカリキュラム構成(コースワーク、リ	集計結果は、指導教員を通じて当該学	導教員) による論文審査、最終試験を行		ドブック)
	サーチワークを含める)の改定を進め	生にフィードバックし、その後の研究	っている。大学院研究科委員会が主催す		
	た。(第 317 回東京情報大学大学院拡大	活動の改善に活用している。(第318回	る口頭論文発表会及び論文審査、最終試		講義の質改善・向上に向けた取り組みとし
	研究科委員会資料)	東京情報大学大学院拡大研究科委員会	験の評価に基づき修士の学位授与のた		ては、受講生による科目ごとの「教育評価

		資料)	めの最終審査 (研究科委員会) において		アンケート」を実施し、その結果を講義
	博士後期課程においては、「情報システ	八子俊の研先店期に除わる泉児作りに	判定している。		担当者へフィードバックしている。(第
	ム系列」、「社会情報系列」、「ヘルス		博士後期課程の修了要件は、大学院学則		307 回東京情報大学大学院拡大研究科委
	ケア情報系列」の3つの系列の博士前期	云」に八子阮生の伽九主と甲萌して、	第 13 条の規定に基づき、博士の学位授		員会資料(資料3別紙1))
	課程で修得した専門知識や研究能力を	伽九佰動へへ一へを帷末している。(第	与のための基準及び方法を設け、主査及		
	基礎として、「博士特別研究」(コース	10 凹部门 *工地建物寺利用安貝云貝科/	び副査による論文審査、最終試験を行っ		
	ワーク)により、極めて高度な専門知識、	よた、2020年11月に「元焔ノーク科子	ている。研究科委員会が主催する公聴会		
	論理的で独創的な研究・開発能力を修得	伽先セングー」を試直し、ケーグリイ	及び論文審査、最終試験の評価に基づき		
	する研究指導、「博士特別演習」(リサ	エノ人の伽先拠点にりるとともに、子	博士の学位授与のための最終審査(博士		
	ーチワーク)により、研究成果や解決策	前子生がり八子院生ましか/ 「グリイ	課程研究科委員会)において判定してい		
	を的確に社会へ発信する情報発信力、コ	エンスに関する研究を進める環境整備	る。		
	ミュニケーションなどの能力を養う口	を進めている。(第355回東京情報大学			
	頭発表、博士論文発表会や学会発表など	総合情報学部教授会資料)(第1回_先			
	を行う科目を配置した。また、総合情報				
	分野において、情報化社会における諸問				
	題を的確に捉え、独創的な考えで研究活	学部・社会人からの受入推進に関して			
	動を行う研究の素養を修得するための				
	科目として「情報哲学」を配置した。	則の改廃を行った。(第307回東京情報			
		大学大学院拡大研究科委員会資料)			
	【長所】	【長所】	【長所】	【長所】	【長所】
	・系列・専門分野に体系化した科目群の	・学部と大学院の接続性を考慮して、	・特になし	・特になし	・特になし
	配置している。	系列・専門分野や科目履修制度を設置			
		している。			
		複数の教員によるパフォーマンス評			
		価の実施している。			
보다 시 // 글봇 미디 수	【特色】	【特色】	【特色】	【特色】	【特色】
現状説明を	・「情報システム系列」、「社会情報系	・学部学生が大学院の科目を履修でき	・特になし	・「テーマ設定」、「研究内容」、「発表内容」	・特になし
踏まえた	列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの	る先取り履修制度の設置している。		の3つの観点から9項目を設定して研	
長所・特色	系列においては、それぞれの専門的特徴	・総合情報学部「先端データ科学研究		究論文発表会(中間報告)の際にパフォ	
	を活かした「専門科目」(コースワーク)	センター」と連携し、学部から大学院		ーマンス評価を実施することで学生の	
	を編成し、「修士特別研究」(コースワ	までの学生がデータサイエンスに興味		研究活動の進捗状況を把握、評価してい	
	ーク)により、研究・開発能力を修得す	を持ち、データサイエンスに係わる研		る。また、その評価内容と集計結果を、	
	る研究指導、「修士特別演習」(リサー	究を進める環境を整備している。		当該学生の指導教員を通じて学生にフ	
	チワーク)により、研究の素養を修得す			ィードバックし、その後の研究活動の改	
	る口頭発表や修士論文発表会などを行			善に活用している。	
	っている。			_	
			I	l .	

	【問題点】	【問題点】	【問題点】	【問題点】	【問題点】
	・特になし	・特になし	・特になし	・特になし	・特になし
	【課題】	【課題】	【課題】	【課題】	【課題】
おからまま	・2023 年度からの学部改革に対応して	・先端データ科学研究センターを活用	・ルーブリックを活用したパフォーマン	・ルーブリックを活用したパフォーマン	・2023 年度からの学部改革に対応する大
現状説明を	大学院教育課程の編成・実施方針(カリ	した特色のあるテーマを推進してい	ス評価内容や評価結果の可視化方法に	ス評価内容や評価結果の可視化方法や	学院教育の教育課程及びその内容、方法の
踏まえた	キュラム・ポリシー)を検討する。	<.	ついて検討する。	支援システムについて検討する。	適切性を検討する。
問題点及び次		・社会人大学院生に関しては、通常の			
年度への課題		勤務をしながら修士号を取得する場合			
		が考えられる。本件については、今後、			
		具体的事案が発生した場合に、6・7限			
		開講・土曜日開講・集中講義・オンライ			
		ン授業などの対応を検討する。			
	・第307回東京情報大学大学院拡大研究	・大学院リーフレット	・学生ハンドブック 2021	・第301回東京情報大学大学院拡大研究	・第 307 回東京情報大学大学院拡大研究
	科委員会資料	・学生ハンドブック 2021	(大学院総合情報学研究科)	科委員会資料	科委員会資料
	・第317回東京情報大学大学院拡大研究	(大学院総合情報学研究科)	・学生ハンドブック 2021 (諸規則諸規	・大学院ルーブリック評価表 v1	・第 317 回東京情報大学大学院拡大研究
	科委員会資料	・学生ハンドブック 2021 (諸規則諸規	程)(東京情報大学大学院学則)	・大学院ルーブリック評価法 v1	科委員会資料
	・学生ハンドブック 2021	程)(東京情報大学大学院奨学生規程)		・資料:修士論文・発表_採点用紙例	・学生ハンドブック 2021
	(大学院総合情報学研究科)	・第 16 回部門・土地建物等利用委員会			(大学院総合情報学研究科)
		資料			
根拠資料名		・第 307 回東京情報大学大学院拡大研			
		究科委員会資料			
		・第 318 回東京情報大学大学院拡大研			
		究科委員会資料			
		· 第 355 回東京情報大学総合情報学部			
		教授会資料			
		・第1回_先端データ科学研究センター			
1		運営委員会_議事録			

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

		2
点検項目	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー) に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもと に改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価	☑ している	☑ 行っている
(☑を記入)	□ 一部している □ していない	□ 一部行っている □ 行っていない
	大学院総合情報学研究科(博士前期課程および博士後期課程)は、学部教育との連携を強く意識し、	東京情報大学大学院学則第4条に入学定員及び収容定員を定めているが、下記に示すように充

「情報システム」「社会情報」「ヘルスケア情報」の3つの系列で構成された教育体制を設置してい | 足されていない。その要因としては、2008年リーマンショックの影響から脱して景気回復傾向 る。学生の受入に関しては、学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)に基づき、募集要項 となり情報系の就職状況が良くなった、生活面・学費面の問題から大学院に進学する余裕が無 に募集要件、博士前期課程における講義内容を提示している。入学者選抜には、学内推薦入試と一┃いなどの外的要因が考えられる。一方、内的要因として、研究活動に関する学生の興味不足や 般入試がある。学内推薦入試は、博士前期課程を6月上旬に試験を実施しており、選抜方法は、書 | 大学院生の研究活動環境の不足などが考えられる。このような問題を解決して大学院進学者数 類審査、面接(口述試験)である。一般入試は、博士前期課程を10月上旬と2月中旬の2回、博士を充足するには、大学院の教育体系の見直しや大学院生の生活支援の充実などの改革を推進す 士後期課程を2月中旬に実施しており、選抜方法は、外国語(英語)、筆記試験(博士後期課程は│ることにより大学院教育・研究活動の活性化を図る必要があると考え、大学院及び総合情報学 論文試験)、面接(口述試験)である。入学者選抜の合否判定は、入試結果を、大学院拡大研究科 | 部次期改革委員会を設置し、2019年7月2日から2020年1月21日の間、本委員会を10回開 委員会で審議している。

博士前期課程 選抜方法

点検項目に 対する 現状説明

試験時間	一般	社会人	備考
10:00~11:00	外国語	_	英語辞書(電子辞書*を含む)持込可
11:30~12:30	筆 記 試 験	筆記試験	
13:30~	口述試験	面 接	

*出願書類、外国語(英語:一般のみ)、筆記試験、口述試験(面接)等を総合して判定します。 *外国語(英語)において持ち込める電子辞書は、辞書機能のみを搭載したものに限ります。

博士後期課程 選抜方法

試験時間	一般	社会人	備考
10:00~11:00	外国語能力審査	_	英語(辞書持込可)
11:30~12:30	論 文 試 験	論文試験	分野に関する専門知識等の論述審査
13:30~	面接試験	面接試験	研究計画等に関する口頭試問

*出願書類、外国語能力審査(該当者のみ)、論文試験、面接試験の結果を総合して合否判定する。

催して検討を進めた。

○過去5年間の入学定員に対する入学者比率

年度	前期課程			後期課程		
十段	入学定員	入学者	充足率	入学定員	入学者	充足率
H29	15	6	40.0	3	2	66.7
H30	15	3	20.0	3	1	33.3
H31	15	6	40.0	3	1	33.3
R2	15	6	40.0	3	0	0.0
R3	15	10	66.7	3	0	0.0

○過去5年間の収容定員に対する在籍学生比率

年度	前期課程			後期課程		
午及	収容定員	在籍者	充足率	収容定員	在籍者	充足率
H29	30	12	40.0	9	4	44.4
H30	30	10	33.3	9	3	33.3
H31	30	11	36.7	9	4	44.4
R2	30	13	43.3	9	3	33.3
R3	30	16	53.3	9	1	11.1

	【長所】	【長所】
	・特になし	・特になし
	13.1 = 3.2	
#11 / 12 → 111 →		
現状説明を		
踏まえた	【特色】	【特色】
長所・特色	・特になし	・特になし
	【問題点】	【問題点】
	・過去5年間、博士前期課程、後期課程とも入学者数が入学定員を満たせていない。	・過去5年間、博士前期課程、後期課程とも入学者数が入学定員を満たせていない。
現状説明を		
踏まえた		
問題点及び次	【課題】	【課題】
年度への課題	・学部学生の就活スケジュールなどを考慮して学内推薦入試のスケジュールを検討する。	・入学者数の増加に向け、学部と連続した教育・研究の啓蒙、魅力ある研究テーマの設置、生
		活支援の更なる充実、保護者への広報活動などに関する改革を継続する。
	・第 307 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料	・第 307 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料
	・第 311 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会議事録	
	・第 314 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会議事録	
根拠資料名	・大学院(博士前期課程)学内推薦入試のご案内	
	・東京情報大学大学院総合情報学研究科(博士前期課程)学内推薦入試の実施について(お知らせ)	
	・東京情報大学大学院(博士前期課程)募集要項	
	・東京情報大学大学院(博士後期課程)募集要項	

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

		2	3	4	5
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に 関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っ ているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点 検・評価を行っているか。また、その結 果をもとに改善・向上に向けた取り組 みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	✓ している□ 一部している□ していない	✓ している□ 一部している□ していない	☑行っている □ 一部行っている □ 行っていない	✓つなげている□ 一部つなげている□ つなげていない	☑行っている □ 一部行っている □ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	研究指導・授業担当における専任教員については、学部の3学系(「情報システム」「数理情報」「社会情報」)の学生を受け入れており、学部学生の専門性を考慮した科目を整備し、授業担当を学部の教員で対応している。看護学部の卒業生の大学院への進学に対しては、「ヘルスケア情報系列」を設置して1期生が卒業する2021年度から受け入れ可能としている。ただし、研究科の教育体系、科目構成に対応して教員を配置しているが教員採用人事に関しては学部の教員組織構成に依存しており、大学院固有で必要な科目に関しては、学部と連携して非常勤を採用している。	専任教員の数に関しては、令和3年4月現在で、指導教授15名であり、文部省告示第百七十五号(大学院設置基準第九条の規定に基づく大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数)に示してある工学関係の教員数(原則として、研究指導教員数と研究指導補助教員数を合わせて七以上とする)照らして問題ない。年齢構成に配慮した教員配置については、学部の教員の年齢構成に依存している。	大学院では、教員資格審査基準マニュアルに基づき指導教授、指導准教授及び授業科目担当者の採用を行っている。資格審査委員会の審査において適格と判断された採用者に対しては、大学院研究科委員会において投票を行い、出席者の2/3以上の得票のあった者が、学長の決定を受け、人事委員会に付議され承認されている。	活動については、学部と共同で実施しており、大学院固有の FD 活動は実施していない。教員の質的向上に対しては、大学院の授業ごとの「教育評価アンケート」を実施	研究科の教育体系、科目構成に対応した昇格、採用等の人事を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし 【特色】	【長所】 ・特になし 【特色】	【長所】 ・特になし 【特色】	【長所】 ・特になし 【特色】	【長所】 ・特になし 【特色】
	・特になし	・特になし	・特になし	・特になし	・特になし
現状説明を	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【課題】 ・2023年度からの学部改革に対応する 大学院教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)と教員の専門 性を関連付けて教員組織の編成につい		【課題】 ・2023 年度からの学部改革に対応する 大学院教育課程の編成・実施方針(カリ キュラム・ポリシー)と教員の専門性を 関連付けて教員の募集、採用を検討す	【課題】 ・大学院固有の FD 活動について検討する。	【課題】 ・2023 年度からの学部改革に対応する 大学院教育課程の編成・実施方針(カリ キュラム・ポリシー)と教員の専門性を 関連付けて教員組織の適切性につて検

	て検討する。	て検討する。	る。		討する。
		・研究活動に関しては、先端データ科学研			
		究センターとの連携についても検討する。			
	・第 319 回東京情報大学大学院拡大研	・学生ハンドブック 2021	・教員資格審査基準マニュアル	・東京情報大学ファカルティ・ディベロッ	・第 307 回東京情報大学大学院拡大研
	究科委員会資料(資料10)	(大学院総合情報学研究科)		プメント委員会要綱	究科委員会資料(資料3別紙1)
		・大学院の教員の数: 文部省告示第百七十			
		五号(大学院設置基準第九条の規定に基づ			
根拠資料名		く大学院に専攻ごとに置くものとする教			
		員の数)			
		・第 319 回東京情報大学大学院拡大研究			
		科委員会資料(資料10)			